

自然に優しいまち「瑞浪」

「私が移住した五十五年前の土岐川は真っ白だった。」
昨日の「中学生と語る会」でホタルについて話を
してくださった講師のO氏は、このように話されま
した。中学生のみなさんは到底知らないでしょうね。
保護者の皆さんの中にも、知らない方はいらっしゃる
のではないのでしょうか。

私も、土岐川の白い水をよく覚えています。私が
生まれ育った釜戸町で言うと、土岐川に流れ込む
支流の川から白い水が流れ込んでいました。私が遊
んでいたエリアは、その合流地点よりも上流でしたので、幼い頃には
何の疑問ももちませんでした。しかし、どんどん下流に行くにつ
れて、その白さが目立っていました。白い水は支流の川からどんど
ん流れ込んでいたのです。

この白い水の正体が皆さんにはわかりますか。陶器の原料の陶土
です。環境基準が緩やかだった昔は、川に流してもだれも何も言
いませんでした。したがって、陶磁器産業が盛んであればあるほど
水の濁りは濃くなっていきました。

今はどうかというと、生活環境を汚染するものを流すことが許
されなくなったこと、更には、陶磁器産業がだんだん勢いを失って
きたことが関係して、川の水が白くなることはなくなりました。こ
れはよいことのように思える反面、地場産業が徐々に衰えているこ
との表われであり残念なことだと言えます。

この先、瑞浪恵那道路ができ上がり、ますます交通の流れがよ
くなります。さらに、リニアが開通すれば、その沿線の瑞浪にもこ
れまでになかった発展の可能性が出てくるかもしれません。どち
らも、皆さんのような若者が中心となって世の中を動かしていくと
きは実現します。これまで見たことのない瑞浪市ができあがりそう
にわくわくしますね。

しかし、覚えておいてください、「発展」の裏側には「犠牲」があ
るということを。世の中が活気づけば活気づくほど、何かが少なく
なったりなくなったりするものです。だからこそ、発展と同時に、守
ることをやらなければなりません。

「化石のまち」「歴史のまち」「陶磁器のまち」「ゴルフのまち」瑞
浪のホームから見える看板には、瑞浪をアピールする言葉として
この四つが書かれています。「化石」「歴史」は変えることができな
い過去のものなので良しとしても、「陶磁器」「ゴルフ」が気になり
ます。

この四つに「ホタルのまち」という言葉が加わったらどうでしょう
か。先の「発展」と「犠牲」の関係が、「発展」と「保護」の関係に変わ
り、瑞浪は自然に優しいという新たなアピールとなると思います。
それに取り組むのは、今の皆さんですよ。 (十二月十三日 記)

